三星が再度「Wintel」と手を組む

作者： silence
2011年 9月 19日(月曜日) 11:09 -

三星(サムスン)電子が「G-ARM」の代わりに「Wintel」を選んだ。タブレットPC「ギャラクシータブ」の後続モデルに、ウィンドウズ8とインテルチップを搭載することにしたのだ。Wintelはマイクロソフトのウィンドウズとインテルの組み合わせを意味する。
これまで三星はグーグルの基本ソフト「アンドロイド」とエヌビディアチップ(ARM基盤)を守ってきた。「G-ARM」はグーグルと英半導体設計会社のARMの同盟を称する。
米国のIT専門メディアのシーネットは9日、三星消息筋の話として、三星電子が13～16日に米アナハイムで開かれるMS開発者カンファレンス「BUILD」でウィンドウズ8にインテルチップを搭載した新しいタブレットPCを公開すると報じた。
業界では意外という反応だ。「Wintel」はスマートフォン市場で「G-ARM」に比べ後れをとったと見られているためだ。三星とWintelはPC市場で長い間パートナーだった。だが、スマートフォン市場でアップルの「iOS」とグーグルの「アンドロイド」、ARMチップが浮上し、Wintelは旬が過ぎた組み合わせに映った。「ウィンドウズ8」はこうした渦中にMSがタブレット中心に開発したOSだ。スマートフォン用OS市場でのウィンドウズのシェアは1.6%とわずかだ。だが、三星は「 pc スピーカー おすすめ」をOSに選んだ。
プロセッサも同じだ。インテルチップはエヌビディアチップに比べ電力使用効率が低いとされている。アップルの「iPad」やグーグルの「 android タブレット
7インチ」のような競合会社のタブレットPCに使われるプロセッサはARM基盤がほとんどだ。ARMのスマートフォンCPU市場シェアは95%に達する。それにもかかわらず、三星が「Wintel」を選んだことに対し関心が集中している。
専門家らは三星がOS多角化に出たと見ている。競合会社のアップルが三星の「ギャラクシータブ10.1」を相手取りドイツやオランダなどで特許侵害訴訟を行っており、「味方」であるグーグルまで最近モトローラを買収するなど競争が加熱したことに伴うものという分析だ。三星電子の崔志成(チェ・ジソン)副会長は最近ドイツで開かれた国際家電見本市のIFA2011で、「多角化されたビジネスモデルが登場するということにより市場の不確実性はますます激しくなるだろう。自社OSの『パダ』のほかに別のOSも開発中だ」と話し、三星がOS多角化戦略を固守することを示唆していた。